



【開催報告】

日本学術会議公開シンポジウム

「若手×多様性×イノベーション を地方から話すコロキウム」

2024年9月4日、福岡市のFukuoka Growth Next イベントスペースにて、日本学術会議若手アカデミー主催の公開シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは、地方における地域課題解決に科学者がどのように貢献できるか、また、地域社会との連携をいかに強化するかを議論することを目的としました。

開会挨拶では、玉田薫氏（九州大学副学長／第三部会員）から、地方が抱える構造的課題の解決に向けた科学者の役割の重要性が強調されました。続いて、小野悠氏（豊橋技術科学大学准教授／連携会員・若手アカデミー代表）が開催趣旨を説明し、若手アカデミーの活動や今回のシンポジウムの背景を紹介しました。

セッション1では、「学問と地域の連携」をテーマに、木村草太（東京都立大学教授／連携会員）がファシリテータを勤め、櫻田涼子（甲南大学教授／連携会員）をはじめ多様な分野の専門家が登壇し、教育や地域社会との関わりについて議論しました。地域連携を活用したキャリア教育、企業の地域貢献活動、そして高校生を含む具体的な取り組みが共有され、地域資本を活かした新しい連携の可能性が示されました。

セッション2では、「地方における新たなイノベーション」をテーマに、武田秀太郎（九州大学准教授／連携会員）がファシリテータを勤め、南澤孝太（慶應義塾大学教授／連携会員）などによりスタートアップ支援や新規事業創出を通じて、地方の活力を取り戻す方策が議論されました。具体例を交えながら、若者の挑戦を支援する仕組みや、地方ならではのイノベーションの可能性が示唆されました。

閉会挨拶では、馬奈木俊介氏（九州大学主幹教授／第一部会員）が議論の成果を総括し、地域社会と学術のさらなる連携に向けた期待を語りました。

